

# 縁付金箔

えん

つけ

きん

ぱく

縁付金箔製造 金箔は、製造工程や使用する紙などによって「縁付箔」と「断切箔」に分かれる。400年以上の伝統がある製法の縁付では、雁皮紙(がんぴし)を藁灰汁(わらあく)や柿渋(かきしぶ)などに漬け込んだ箔打紙を用いて金を打ち延ばし、竹製の道具を使って一枚一枚を正方形に裁断する。一方、昭和40年ごろに始まった近代的製法の断切では、工業製グラシン紙を使って金を打ち延ばし、箔合紙(はくあいし)と金箔が交互に重なった状態で裁断する。



選定保存技術 文化財を保存するために欠くことのできない伝統的な技術や技能で、保存措置を講じる必要があるものを文科相が「選定保存技術」として選定し、その技を有する個人または技能の保存事業を行う団体を保持者、保存団体として認定。国は保持者や保存団体が行う伝承者の養成や技術・技能の錬磨などに必要な経費を補助する。

## 文化審が答申

文化審議会(宮田亮平会長)は18日、文化財の保存に欠かせない選定保存技術に「縁付金箔製造」を選定し、技術の保存団体として「金沢金箔伝統技術保存会(金沢市)」を認定するよう下村博文文部科学相に答申した。

# 選定保存技術に

付金箔の伝統技法が、いわゆる技術の「文化財」である選定保存技術に認められること

先的に使われる見込みだ。

以来で、県内唯一となる。

で、後継者育成や技術・技能向上の事業などに国の補助が受けられる。国宝など文化財の保存修復でも縁付金箔が優

金箔製造分野で国が選定保存技術の選定や保存団体の認定を行うのは初。石川県によると、県内から同技術が選ば

金沢の金箔は国内シェア99%を誇る。このうち時間と手間暇をかけた縁付金箔は色合

少に加え、簡易な近代製法の「断切箔」の増加などで、縁付技法の継承が課題となっていた。

れたのは1978(昭和53)年

「能管製作修理」(昨年解除)

照宮・陽明門や中尊寺金色

このため金沢市と石川県

藩政期から金沢に伝わる縁

【44、46面に関連記事】

堂、下鴨神社(賀茂御祖神社)本殿、金閣寺をはじめ、多くの国宝や文化財、歴史的建造物の保存修理などに使用されてきた。ただ、金箔需要の減少に加え、簡易な近代製法の「断切箔」の増加などで、縁付技法の継承が課題となっていた。

今回の答申で「縁付は日本全国の文化財を支える貴重な技術」(文化庁)という価値が明確になり、産地活性化の追い風にもなりそうだ。

文化審議会は今回、選定保存技術の保存団体に2団体、保持者に6人の認定を答申。9月にも告示され、選定保存技術は71件、保存団体は31団体、保持者は57人となる。

商工業協同組合は、縁付の選定保存技術選定を目指し、2009年に金沢金箔伝統技術保存会を設立。製造工程の詳細調査や技術研修会などに取り組み、市は昨年4月に「金沢伝統箔」を市選定保存技術の第一号に選んでいた。

## 保存団体に金沢伝統技術会

今回の答申で「縁付は日本全国の文化財を支える貴重な技術」(文化庁)という価値が明確になり、産地活性化の追い風にもなりそうだ。文化審議会は今回、選定保存技術の保存団体に2団体、保持者に6人の認定を答申。9月にも告示され、選定保存技術は71件、保存団体は31団体、保持者は57人となる。